食の安全・安心に係る県民アンケート調査結果

和歌山県環境生活部県民局 食品・生活衛生課

1　調査の目的

「食」は生命の根源であり、人間の健康の維持に欠かすことのできないものです。

しかし、食生活の乱れが幅広い年齢層で指摘されており、「食」についての認識改善が求められています。

また近年は、事故米の流通や食品の偽装表示などの事件が相次いでおり、「食」の安全・安心への関心は大きく高まっております。

このような中、県民の皆さまが、「食」に対してどのような意識をお持ちなのかを把握し、今後の県施策に反映させていくことを目的としてアンケート調査を実施しました。

なお、同様の調査は 3 年ごとに実施しています（今回は 3 回目）。

2　調査期間

平成 21 年 12 月 1 日～平成 21 年 12 月 31 日

3　調査項目の概要

（1）食品に対する不安の有無とその要因	＜問 1~問 5 ＞
（2）食品の安全性に関する基礎知識	＜問 6 ＞
（3）食品購入時に重視する点	＜問 7 ＞
（4）食品表示について	＜問 8~10 ＞
（5）「地産地消」及び食品情報の入手について	＜問 11~13 ＞
（6）HACCP 及びトレーサビリティについて	＜問 14~16 ＞
（7）いわゆる健康食品に対する考え方	＜問 17~18 ＞
（8）食の安全性向上に重要なこと	＜問 19 ＞
（9）重要とする行政施策等	＜問 20 ＞

4　調査対象者及び回答数

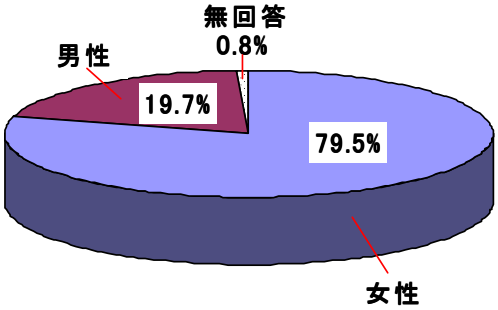
調査は、日常的に食品を購入されている県民の方 1,000 人を対象に実施しました。

依頼アンケート調査数：1,000 人	有効回答数：992 人	有効回答率：99.2 %

○調査対象者の概要（n=992）

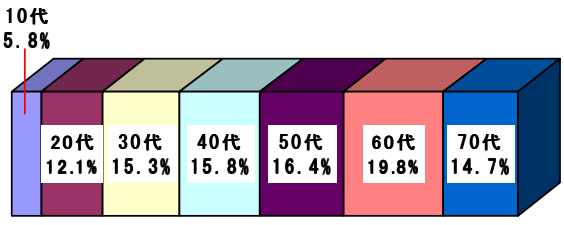
A. 男女構成

女　性：79.5%（789 人）
男　性：19.7%（195 人）
無回答：　0.8%（　8 人）



B. 年齢構成

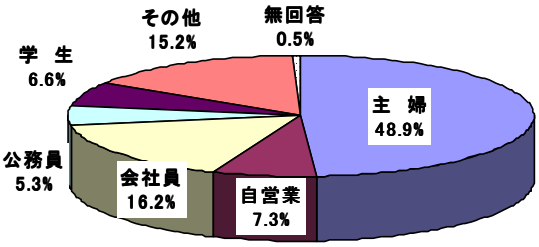
10 代*：5.8%（ 58 人）　20 代：12.1%（120 人）
30 代：15.3%（152 人）　40 代：15.8%（157 人）
50 代：16.4%（163 人）　60 代：19.8%（196 人）
70 代：14.7%（146 人）



（* 10 代は 15~19 歳）

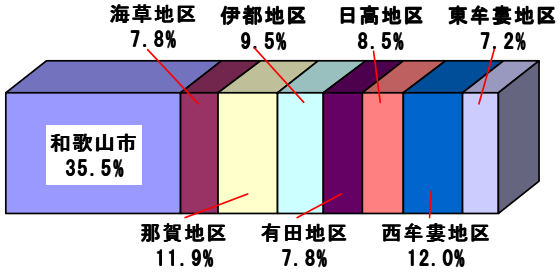
C. 職業別構成

主　婦：48.9%（485 人）
自営業：　7.3%（　72 人）会社員：16.2%（161 人）
公務員：　5.3%（　53 人）学　生：　6.6%（　65 人）
その他：15.2%（151 人）無回答：　0.5%（　5 人）



D. 地域別構成

和歌山市：　35.5%（352 人）　海草地区：　7.8%（　77 人）
那賀地区：　11.9%（118 人）　伊都地区：　9.5%（　94 人）
有田地区：　7.8%（　77 人）　日高地区：　8.5%（　84 人）
西牟婁地区：12.0%（119 人）東牟婁地区：　7.2%（　71 人）

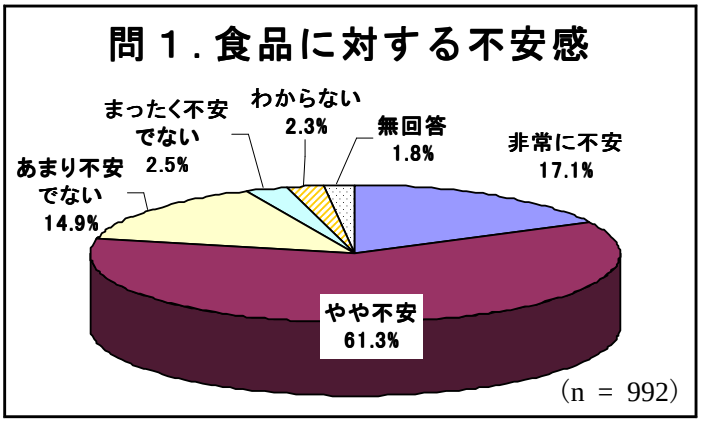


5　調査結果

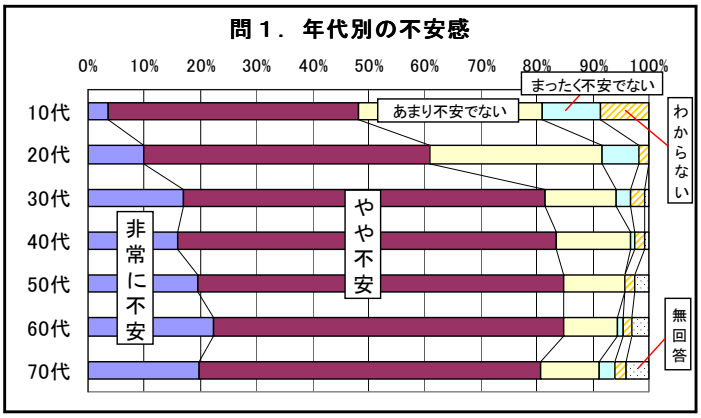
（1）食品に対する不安の有無とその要因

問１．あなたは、食品の安全性に不安を感じていますか？（１つ選択）

日常で食品の安全性に不安を感じているかを聞いたところ、「非常に不安を感じている」が 17.1%（170 人）、「やや不安を感じている」61.3%（608 人）となり、78.4 %（778 人）の方が何らかの不安を感じています。



①非常に不安を感じている
17.1%（170 人）
②やや不安を感じている
61.3%（608 人）
③あまり不安ではない
14.9%（148 人）
④まったく不安ではない
2.5%（　25 人）
⑤わからない　2.3%（　23 人）
⑥無回答　1.8%（　18 人）

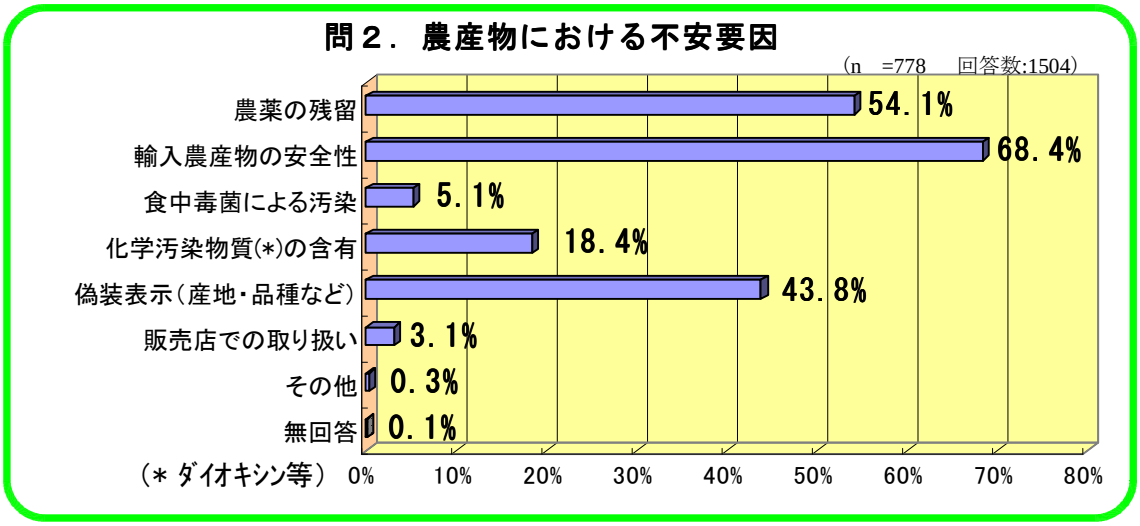


また、何らかの不安感を感じている人の割合を年代別にみたところ、
10 代：48.3%　20 代：60.8%
30 代：81.6%　40 代：83.4%
50 代：84.7%　60 代：84.7%
70 代：80.8%
となり、特に 30 代から不安を感じる人が 80%以上に増加していることが特徴的で、50 代までは年代が上がるごとにその割合は増加しています（左表参照）。

問２．問１で①・②と答えた方で、農産物（生鮮野菜・果物・米など）を購入する際次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（２つ以内選択）

食品に対して不安を感じている方（778 人）のうち、農産物における不安要因として、最も多かったのは「輸入農産物の安全性」の 68.4%（532 人）で、次いで「農薬の残留」54.1%（421 人）、「偽装表示」の 43.8%（341 人）の 3 項目が上位を占めています。

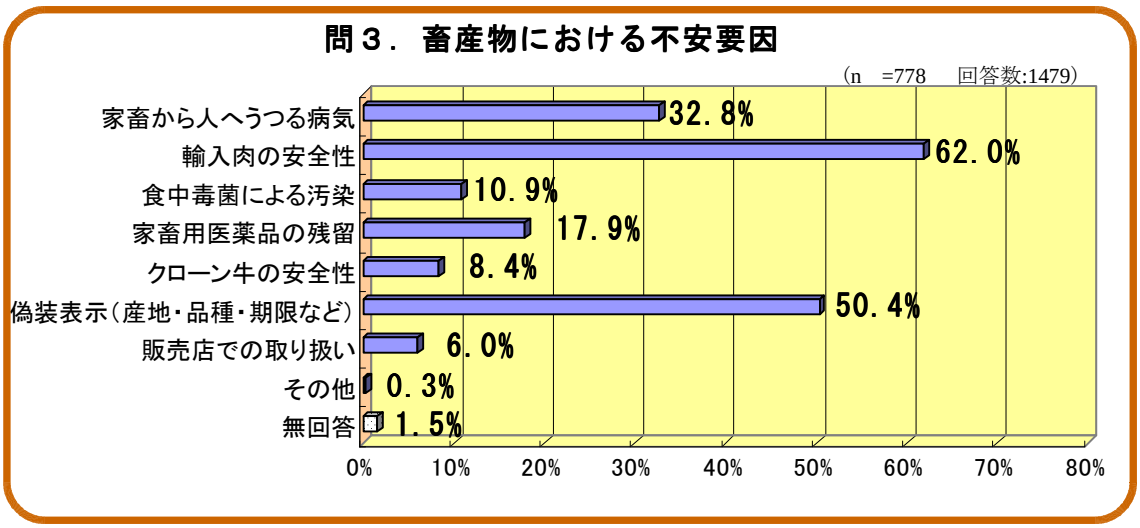
特徴的な点としては、「偽装表示」に対する不安が、前回調査から大きく増加しています（H18：29.7%→ 43.8%）。



問３．問１で①・②と答えた方で、畜産物（肉類・卵・乳製品など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（２つ以内選択）

畜産物における不安要因として、最も多かったのは「輸入肉の安全性」の 62.0%（482 人）で、次いで「偽装表示」50.4%（392 人）、「家畜から人へうつる病気」32.8%（255 人）となり、この 3 項目が上位を占めています。

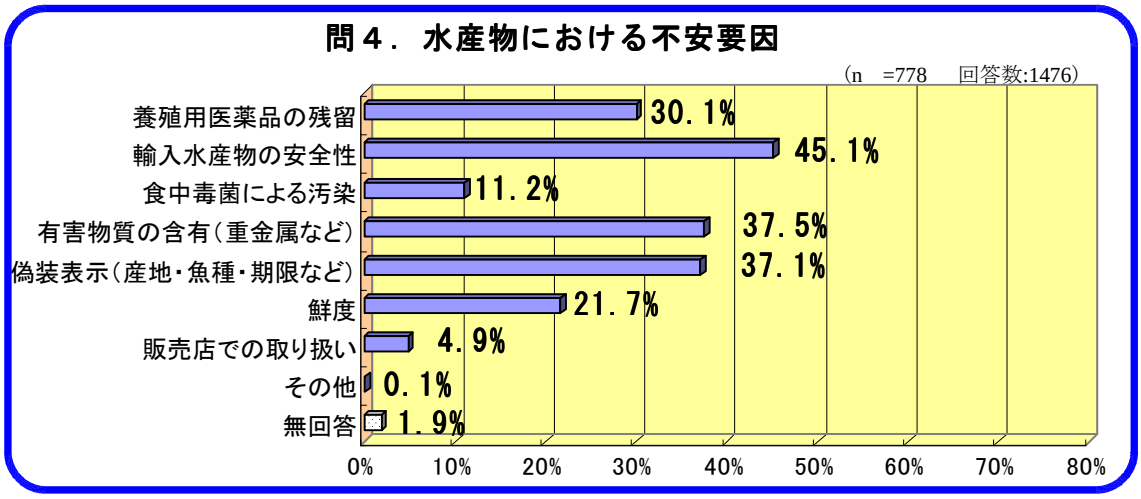
農産物と同様に、「偽装表示」に対する不安が、前回調査から増加（H18：41.9%→ 50.4%）し、一方で「家畜から人へうつる病気」が減少（H18：37.8%→ 32.8%）しています。



問４．問１で①・②と答えた方で、水産物（魚介類・水産加工品など）を購入する際次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（２つ以内選択）

水産物における不安要因として、最も多かったのは「輸入水産物の安全性」の 45.1%（351 人）で、次いで「有害物質の含有」37.5%（292 人）、「偽装表示」の 37.1%（289 人）、「養殖用医薬品の残留」30.1%（234 人）の以上 4 項目が、3 割以上の方の不安要因となっています。

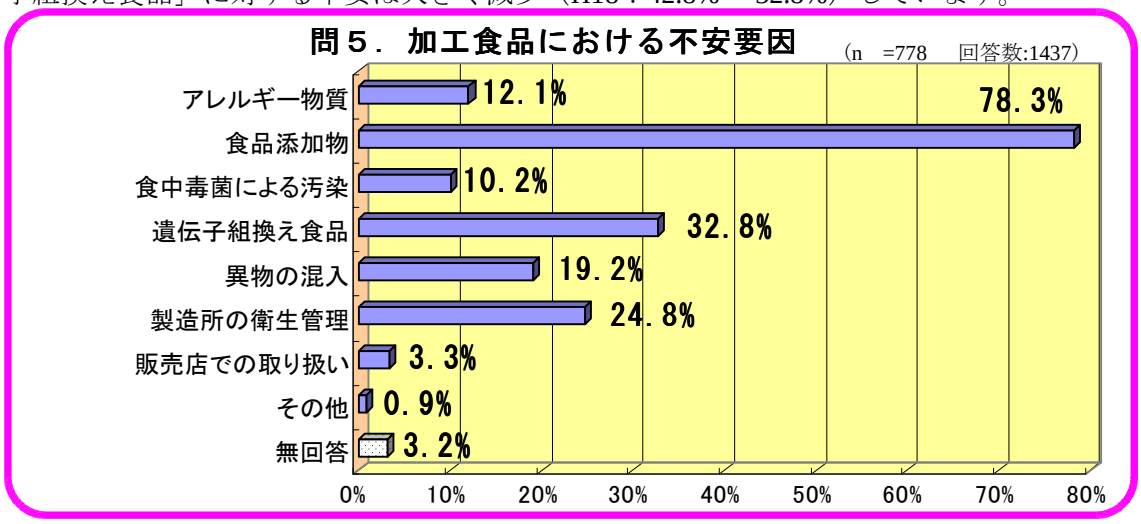
農・畜産物と同様に、「偽装表示」に対する不安が、前回調査から大きく増加（H18：24.9%→ 37.1%）し、一方で「鮮度」が減少（H18：30.2%→ 21.7%）しています。



問５．問１で①・②と答えた方で、上記以外の加工食品（麺類・菓子・調味料など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？（２つ以内選択）

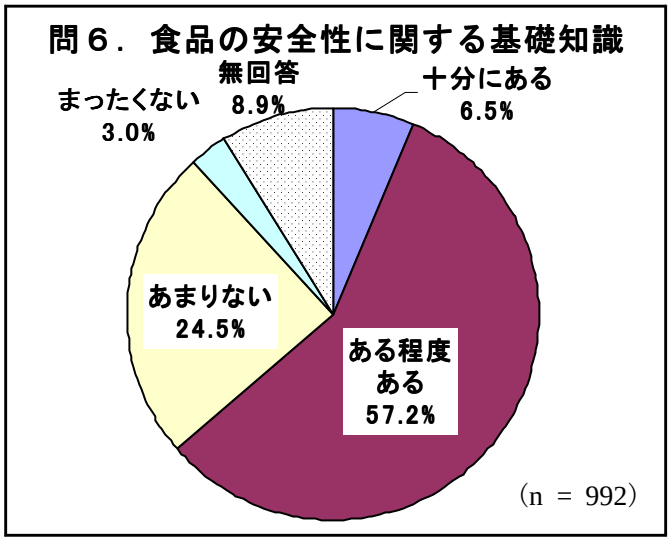
加工食品における不安要因として、「食品添加物」が 78.3%（609 人）と他の要因を大きく引き離し、次いで「遺伝子組換え食品」32.8%（255 人）、「製造所の衛生管理」24.8%（193 人）となっています。

「食品添加物」に対する不安傾向は、前回調査から大きな変化はなく（H18：79.3%→ 78.3%）、依然として加工食品における最も顕著な不安要因となっており、一方で「遺伝子組換え食品」に対する不安は大きく減少（H18：42.8%→ 32.8%）しています。



（２）食品の安全性に関する基礎知識

問６．あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか？（１つ選択）

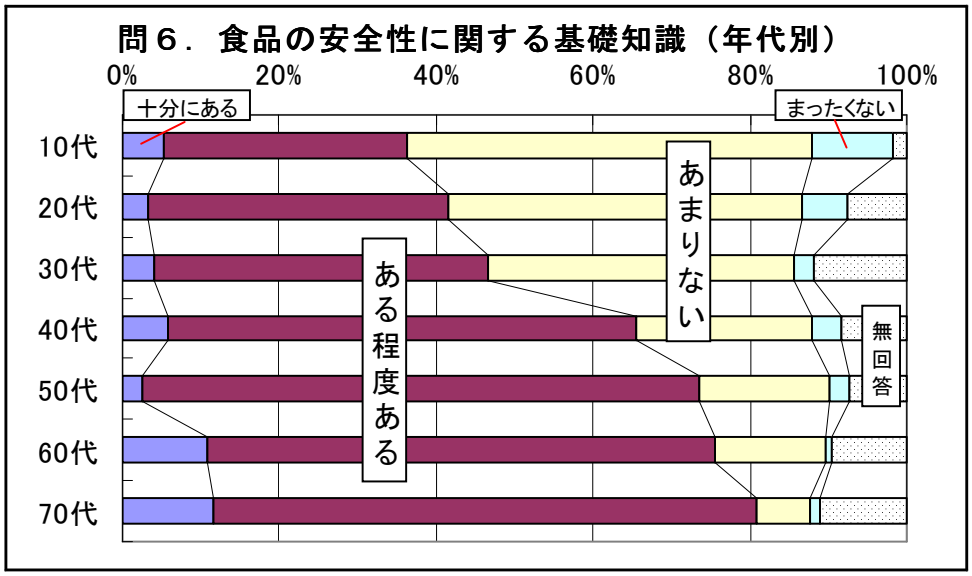


①十分にあると思う
6.5%（ 64 人）
②ある程度あると思う
57.2%（567 人）
③あまりないと思う
24.5%（243 人）
④まったくないと思う
3.0%（ 30 人）
⑤無回答
8.9%（ 88 人）

*「基礎知識がある」＝
「十分にあると思う」「ある程度あると思う」の合計
*「基礎知識がない」＝
「あまりないと思う」「まったくないと思う」の合計

食品の適正な選択などについての『「基礎知識がある*」と思う』には 63.6%（631 人）、『「基礎知識がない*」と思う』には 27.5%（273 人）の人が回答しています。

前回調査に比較すると、「基礎知識がある」と思う人の割合が減少（H18：68.0%→ 63.6%）しています。



また、年代別に『「基礎知識がある」と思う人』の割合をみたところ、

10 代：36.2%　20 代：41.7%　30 代：46.7%　40 代：65.6%
50 代：73.6%　60 代：75.5%　70 代：80.8%

となっています。

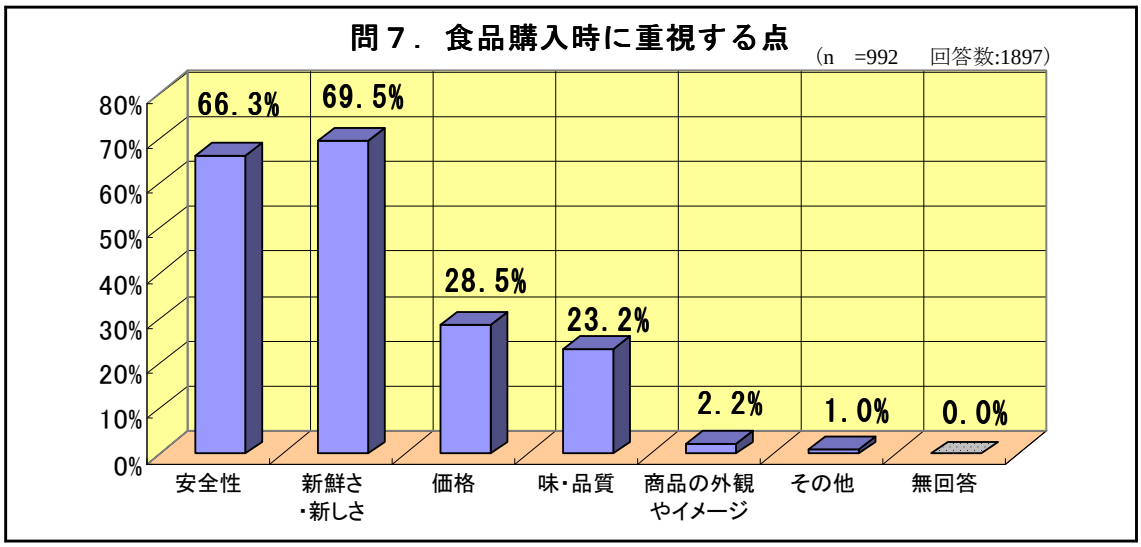
年代を重ねるにつれて、『「基礎知識がある」と思う人』の割合は増加傾向にあります。

（３）食品購入時に重視する点

問７．あなたは、食品を購入する際、次にあげる項目のうち特に気を付けていることはどれですか？（２つ以内選択）

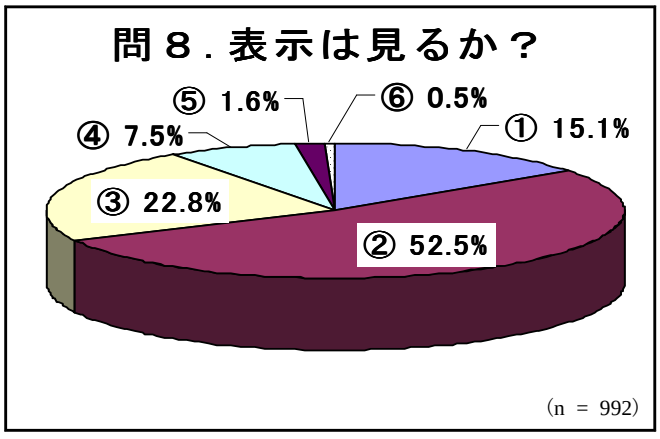
食品を購入する際に重視する点については、「新鮮さ・新しさ」の 69.5%（689 人）、「安全性」66.3%（658 人）の 2 項目が、次いで重視する「価格」28.5%（283 人）、「味・品質」23.2%（230 人）を大きく引き離しています。

前回調査においても同様の傾向がみられており、消費者の食品に対する新鮮さや安全性への意識の高さがうかがわれます。



（４）食品表示について

問８．あなたは、食品を購入する際、表示を見ますか？（１つ選択）

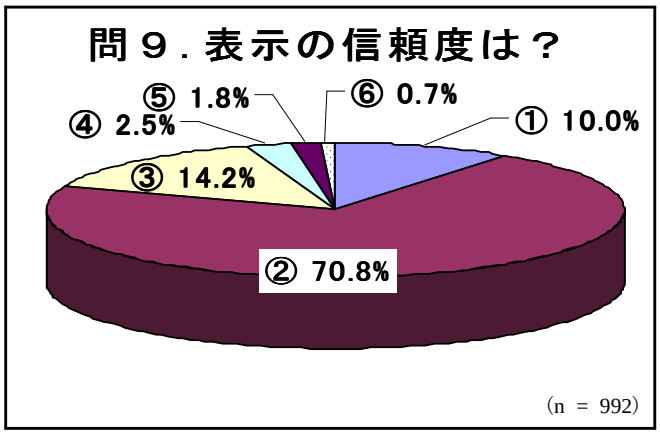


①記載事項はすべて見る
15.1%（150 人）
②必要と思う記載事項だけ見る
52.5%（521 人）
③品物によって見る
22.8%（226 人）
④なんとなく見る
7.5%（ 74 人）
⑤まったく見ない
1.6%（ 16 人）
⑥無回答
0.5%（ 5 人）

食品表示については、その見方には差はあるものの、食品を購入する際に 97.9%（971 人）の人が表示を確認しています。

前回調査においても、同様に 97.2%の人が表示を確認しており、食品を購入する際には、ほとんどの人が表示を見ているという状況に、大きな変化はみられませんでした。

問９．あなたは、食品の表示をどの程度信頼していますか？（１つ選択）



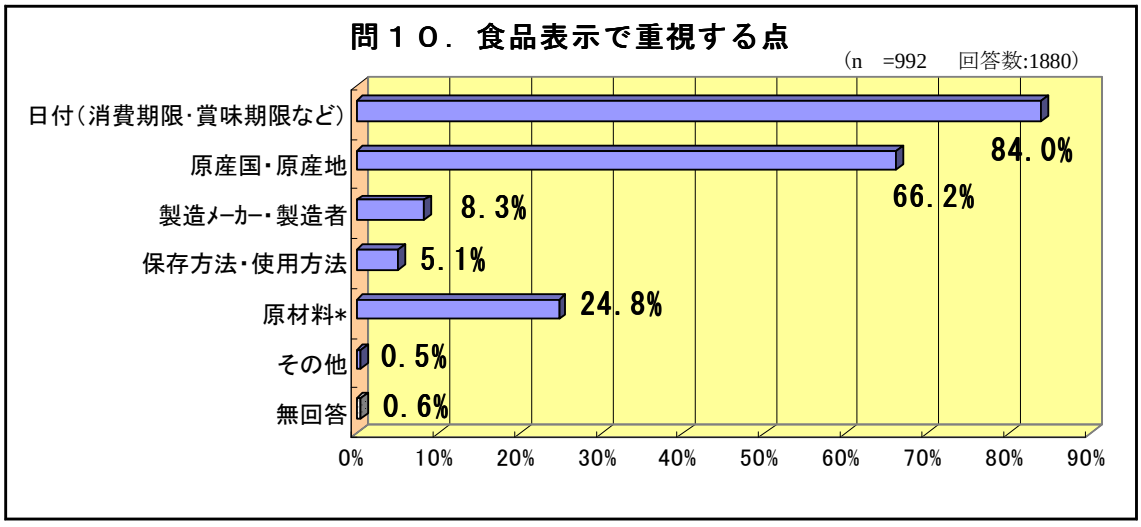
①信頼している　10.0%（ 99 人）
②どちらかといえば
信頼している
70.8%（702 人）
③どちらかといえば
信頼していない
14.2%（141 人）
④信頼していない
2.5%（ 25 人）
⑤関心がない（ほとんど見ない）
1.8%（ 18 人）
⑥無回答　0.7%（ 7 人）

食品表示に対する信頼度については、「どちらかといえば信頼している」と回答している人が 70.8%（702 人）と最も多く、程度の差はみられるものの、80.7%（801 人）の人が食品表示を「信頼している」と回答しています。

問１０．あなたは、食品を購入する際、食品表示の特にどの項目を見て購入しますか？（２つ以内選択）

食品の購入時に、食品表示の項目では、「日付」84.0%（833 人）、「原産国・原産地」66.2%（657 人）の 2 項目が特に重視されています。

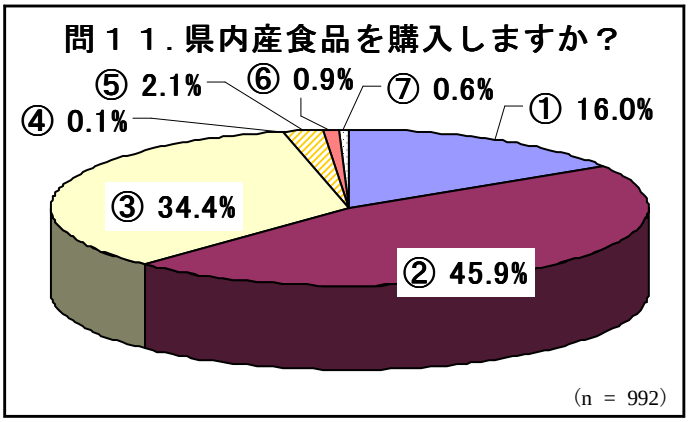
前回調査でも同様の傾向がみられますが、今回の結果では「原産国・原産地」を重視する人の割合が増加（H18：57.7%→ 66.2%）しているのが特徴的です。



（* 「原材料」：食品添加物・ｱﾚﾙｷﾞｰ物質・遺伝子組換え食品などの含有の有無）

（５）「地産地消」及び食品情報の入手について

問１１．地元で生産されたものは地元で消費しようという「地産地消」が近年注目されていますが、あなたは和歌山県産の食品を意識して購入していますか？（１つ選択）



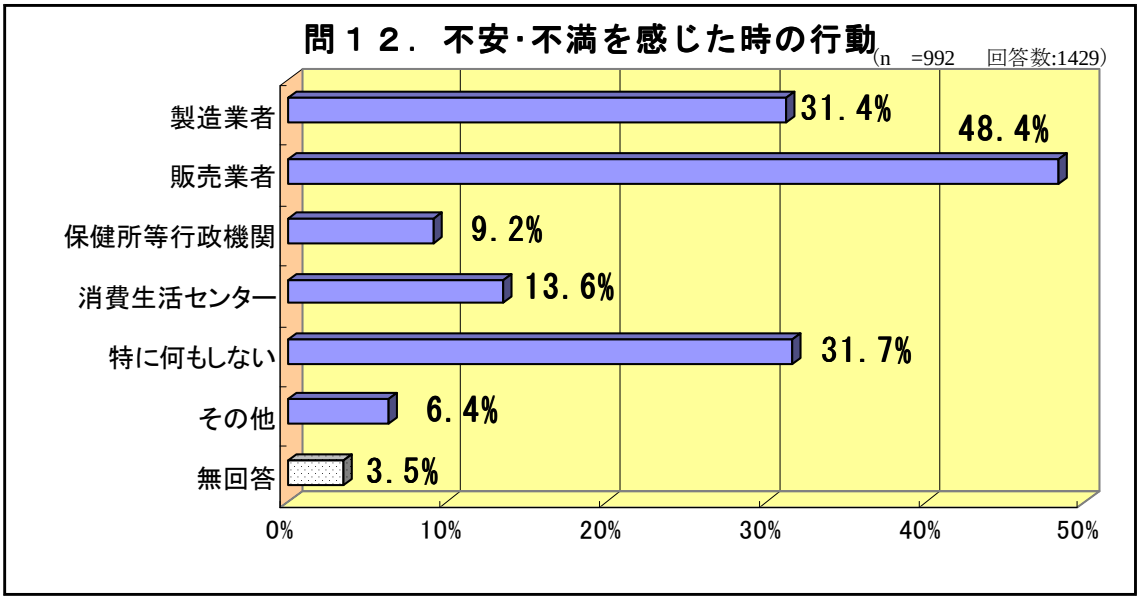
①特に選んで購入する　16.0%（159 人）
②どちらかといえば購入する　45.9%（455 人）
③特にこだわって購入しない　34.4%（341 人）
④購入しないようにしている　0.1%（ 1 人）
⑤わからない　2.1%（ 21 人）
⑥その他　0.9%（ 9 人）
⑦無回答　0.6%（ 6 人）

県内産の食品を意識して購入している人の割合は 61.9%（614 人）で、前回調査（H18 調査：57.7%）からも増加しており、消費者の「地産地消」に対する関心が高まっていることがうかがえます。

問１２．あなたは、購入した食品に不安や不満を感じた時、どうしますか？（２つ以内選択）

食品に不安・不満を感じた時の行動として、最も多かったのが「販売業者へ問い合わせる」48.4%（480 人）で、次いで「特に何もしない」31.7%（314 人）、「製造業者へ問い合わせる」31.4%（311 人）となっています。

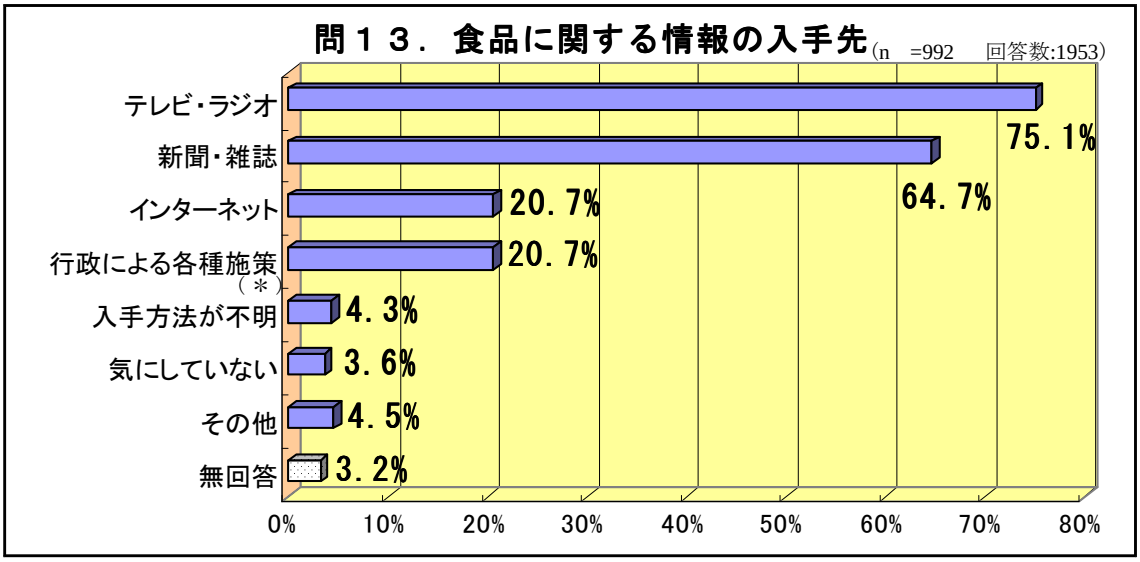
前回調査からは、「特に何もしない」と回答した人が減少（H18：36.2%→ 31.7%）する一方で、「販売業者」（H18：45.0%→ 48.4%）、「消費生活センター」（H18：9.9%→ 13.6%）等へ問い合わせると回答する人が増加しています。



問１３．あなたは、食品の安全性に関する情報をどこから手に入れますか？
（複数選択）

食品に関する情報の入手先は、「テレビ・ラジオ」が 75.1%（745 人）、「新聞・雑誌」64.7%（642 人）の 2 項目が、食品に関する情報の入手先として特に際立っており、このうち一方でもあげている方が 85.7%（850 人）と 8 割以上の人がマスメディア等の情報を利用しています。

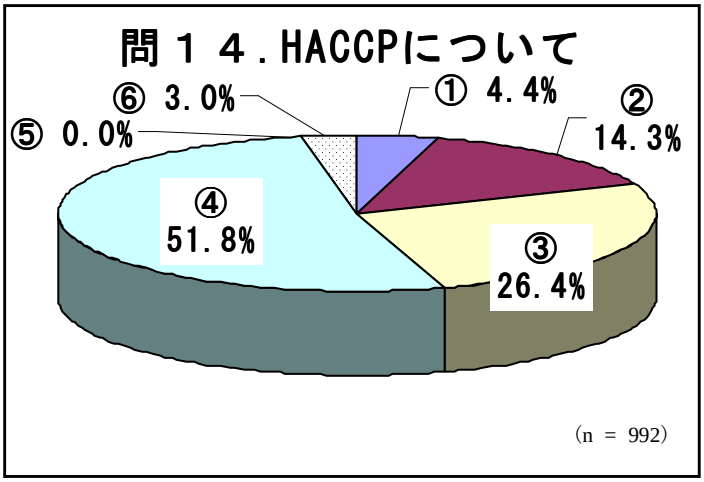
前回調査からは、傾向として「新聞・雑誌」から情報を入手する人の割合が減少（H18：69.6%→ 64.7%）する一方で、「インターネット」から情報を得る人が増加（H18：13.6% → 20.7%）しています。



（*「行政による各種施策」：ﾀｳﾝﾐｰﾃｨﾝｸﾞ・ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ・お話講座・各種印刷物など）

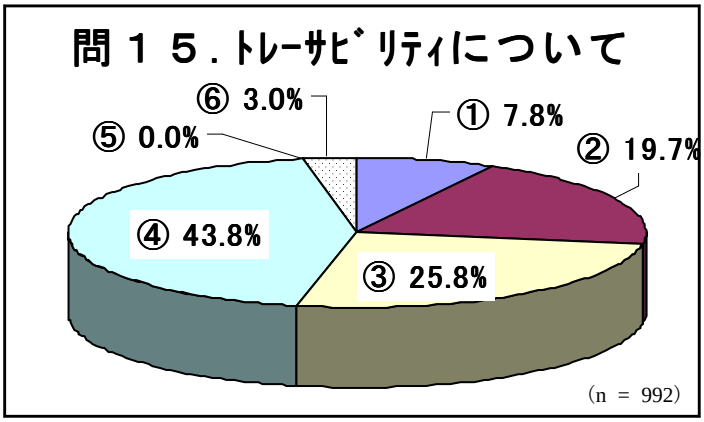
（６）HACCP及びトレーサビリティについて

問１４．あなたは、HACCP（ハサップ）について知っていますか？（１つ選択）
［HACCP とは、安全な食品を生産するために、特に重要な生産工程を特定し、集中的に管理する衛生管理の方法］



①よく知っている
4.4%（ 44 人）
②少しは知っている
14.3%（142 人）
③聞いたことはあるが、
よく知らない
26.4%（262 人）
④まったく知らない
51.8%（514 人）
⑤その他
0.0%（ 0 人）
⑥無回答
3.0%（ 30 人）

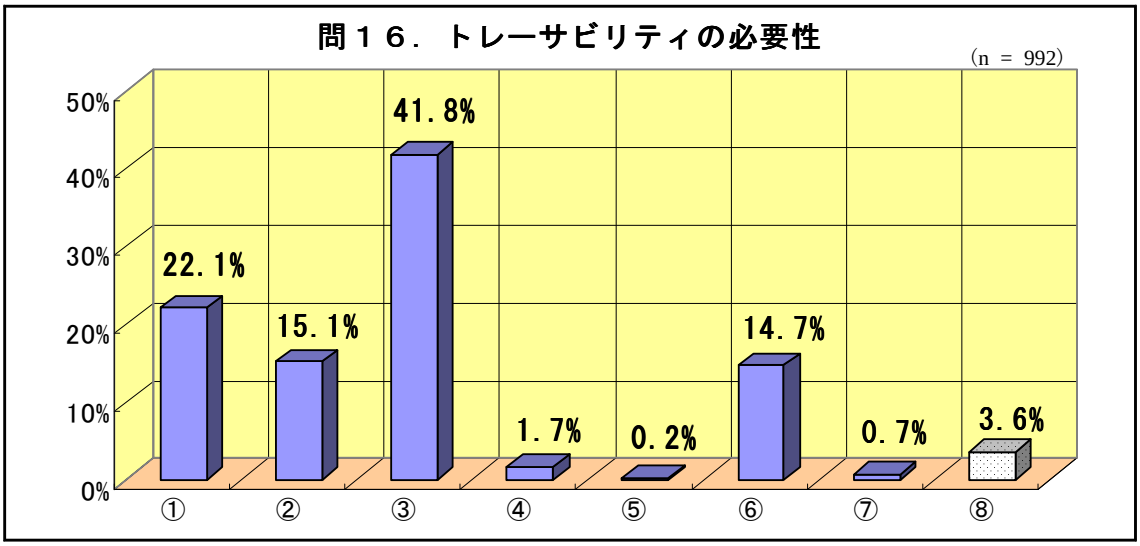
問１５．あなたは、トレーサビリティについて知っていますか？（１つ選択）
［トレーサビリティとは、農畜水産物などが、どこでどのように栽培・生産され、流通されたか追跡できるシステム］



①よく知っている　7.8%（ 77 人）
②少しは知っている　19.7%（195 人）
③聞いたことはあるが、よく知らない　25.8%（256 人）
④まったく知らない　43.8%（434 人）
⑤その他　0.0%（ 0 人）
⑥無回答　3.0%（ 30 人）

問１６．上記トレーサビリティのシステムは、現在一部の大手スーパーなどで実施されており、今後もますます取り組まれていきますが、このシステムについてどう思わますか？（１つ選択）

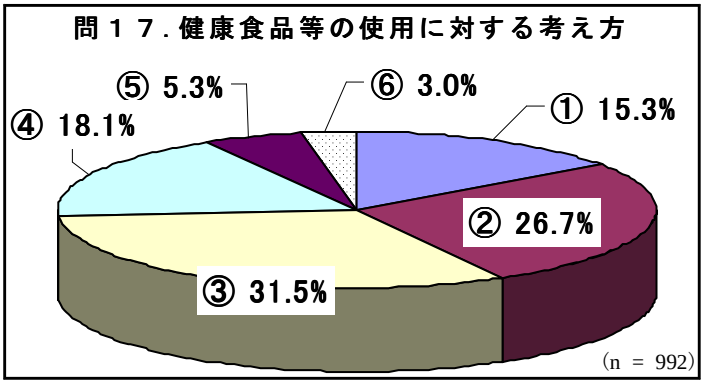
トレーサビリティについて、少しでも知っている人の割合（問 15）は 27.4%（272 人）と少ない状況にありますが、その必要性について聞いたところ、79.0%（784 人）の人が「必要」あるいは「あれば良い」と考えています。



①すべての食品で必要であり活用したい　22.1%（219 人）
②一部の食品では必要で活用したい　15.1%（150 人）
③そのようなシステムがあれば良いと思う　41.8%（415 人）
④あまり必要でない　1.7%（ 17 人）
⑤必要でない　0.2%（ 2 人）
⑥わからない　14.7%（146 人）
⑦その他　0.7%（ 7 人）
⑧無回答　3.6%（ 36 人）

（７）いわゆる健康食品に対する考え方

問１７．健康食品やサプリメントに対する考えや、その使用について、あなたはどのように考えていますか？（１つ選択）

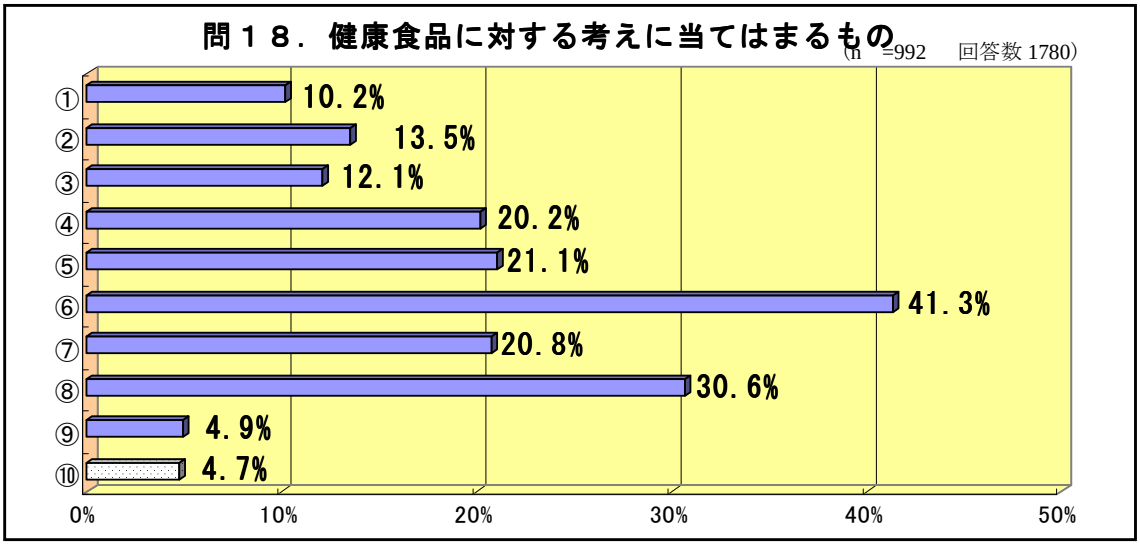


①不安を感じずに使用する　15.3%（152 人）
②不安を感じるが使用する　26.7%（265 人）
③不安を感じるので使用しない　31.5%（312 人）
④不安を感じないが使用しない　18.1%（180 人）
⑤その他　5.3%（ 53 人）
⑥無回答　3.0%（ 30 人）

健康食品やサプリメントといった、「いわゆる健康食品」と呼ばれているものについては、58.2%（577 人）の人が何らかの不安を感じており、不安を感じない人の 33.5%（332 人）を大きく上回っています。

問１８．健康食品やサプリメントについて、あなたの考えに当てはまるものは何ですか？（複数選択）

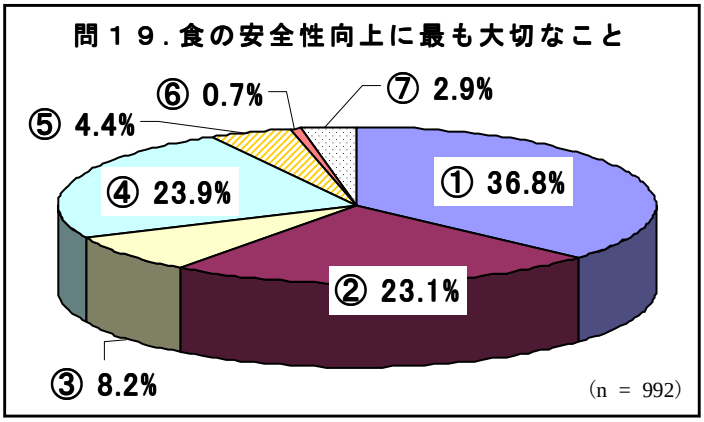
「いわゆる健康食品」に対する考えについて聞いたところ、最も多かったのは「イメージのみが先行している」41.3%（410 人）で、次いで「成分検査をもっとすべきだ」30.6%（304 人）の 2 項目が上位を占めています。



①食品だから副作用がない	10.2%（101 人）	②天然・自然成分だから安心	13.5%（134 人）
③薬のような効果がある	12.1%（120 人）	④食品に効果を期待するのは誤りだ	20.2%（200 人）
⑤製造・販売を許可制にすべきだ	21.1%（209 人）	⑥イメージのみが先行している	41.3%（410 人）
⑦製造業者への指導が必要	20.8%（206 人）	⑧成分検査をもっとすべきだ	30.6%（304 人）
⑨その他	4.9%（ 49 人）	⑩無回答	4.7%（ 47 人）

（８）食の安全性向上に重要なこと

問１９．次の中で、食の安全性の向上に最も大切なことは何だと思いますか？（１つ選択）



①消費者の知識　36.8%（365 人）
②業者のｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ(法令遵守)　23.1%（229 人）
③行政の指導　8.2%（ 81 人）
④消費者や業者と行政の協力　23.9%（237 人）
⑤わからない　4.4%（ 44 人）
⑥その他　0.7%（ 7 人）
⑦無回答　2.9%（ 29 人）

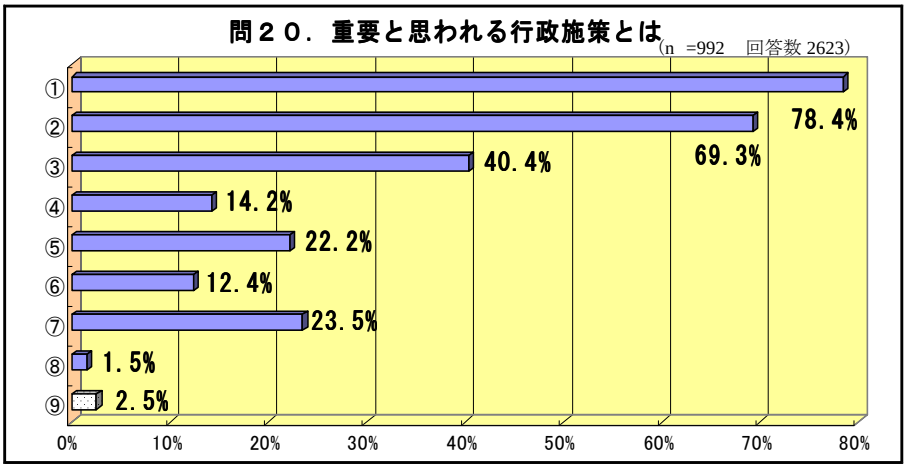
食の安全性向上に最も大切なことは、「消費者の知識」36.8%（365 人）、「消費者や業者と行政の協力」23.9%（237 人）、「業者のコンプライアンス」23.1%（229 人）の 3 項目が上位を占めています。

前回調査からは、「消費者や業者と行政の協力」が減少（H18：30.6%→ 23.9%）する一方で、「消費者の知識」（H18：34.1%→ 36.8%）を含め、「行政の指導」（H18：6.3%→ 8.2%）等の事項がそれぞれ増加しています。

（９）重要とする行政施策及び意見等

問２０．あなたは、食品の安全・安心を確保するための行政施策として何が重要だと思いますか？（３つ以内選択）

食品の安全・安心に関する行政施策の重要性は、「食品検査と結果の公表」が 78.4%（778 人）と最も多くで、次いで「製造所・販売所への立入検査」69.3%（687 人）、「農畜水産物の生産者への指導」40.4%（401 人）の 3 項目が上位を占めています。



前回調査からは、「製造所・販売所への立入検査」の割合が大きく増加（H18：56.9%→ 69.3%）しています。

①食品検査と結果の公表	78.4%（778 人）	②製造所・販売所への立入検査	69.3%（687 人）
③農畜水産物の生産者への指導	40.4%（401 人）	④消費者からの相談受付	14.2%（141 人）
⑤業者の自主管理の推進	22.2%（220 人）	⑥印刷物やﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞによる情報の提供	12.4%（123 人）
⑦消費者からの意見の収集と施策への反映	23.5%（233 人）	⑧その他	1.5%（ 15 人）
		⑨無回答	2.5%（ 25 人）

６　その他のご意見

○　食の安全について、日頃、感じていることがあれば、どんなことでも結構ですのでお書きください。

上記設問に対して、274 人の方からご意見をいただき、下記の項目ごとに分類したところ 313 件のご意見・ご提案がありました。一部ですが、代表的なものを紹介します。

（１）農薬等に対する不安について（12件）

○　最近、農産物の直売所が沢山あり、安心して食べられるような気がしますが、農薬の残留や化学汚染などは、スーパーで買うものと変わらないのかなと疑問に思います（女性 50 代）。

○　近年、米や野菜に消毒が多く、昆虫が少ない。食の安全・安心のため、農産物の消毒はなるべくしないように願います（女性 60 代）。

○　微生物や残留農薬による健康被害が非常に不安です。食品は生産現場から消費者に届くまでを徹底的に管理して、安全な食を提供してほしいです（女性 40 代）。

○　最低限の薬しか使わずに、生産・運搬するのが良いと思います。見た目は気にせずに、味や品質が重要だと思います（男性 20 代）。

（２）食品添加物等に対する不安について（18件）

○　食品添加物や遺伝子組換え作物などを使った食品はなるべく避けて､自然のもの、本来のものを摂りたいと思っていますが、手軽さに負けて、つい加工食品を買ってしまいます（女性 50 代）。

○　近頃、安全性を重視するために、食品添加物を使い過ぎているのではないかと思います（女性 70 代）。

○　食品添加物が大変気になります。添加物が数種類複合された場合や、もしくは 1 日平均にして摂る種類・量が、人間にとって安全なのかどうかを調べないとダメなのではないでしょうか（女性 40 代）。

○　食品添加物等は、発がん性の問題など、グレーなところが多分あるように感じる（男性 40 代）。

○　食品添加物がどのように体に影響があるのか、不安に感じて生活している（女性 50 代）。

（３）輸入食品に対する不安について（32件）

○　海外からの輸入品が増えすぎているため、品質や価格が崩壊している面があるのではないかと不安です。生産者にとって、生活をしていくことに局面を迎えている気がします（女性 70 代）。

○　生鮮食品は輸入物を買わないようにしています。偽装表示などの問題がありますが、信用するしかありません。外食については、常々不安に思っています（女性 40 代）。

○　海外からの食品は、何を信用していいのかわからないが、安いので買わずにはいられない。安全性の高さを国に求めます（女性 30 代）。

○　輸入食品が多いと思う。コスト重視になっているところが多いので、国が国産と輸入のバランスを調整してほしい（男性 30 代）。

○　輸入食品（特に中国からのもの）に不安を感じています。輸入品に対して、どのように管理や検査を行っているかなど、個人でも、ある程度の知識を持つことが大切だと思いました（女性 20 代）。

○　家族の健康のために、安全性の高い食品を選ぶよう心掛けてはいますが、経済的

理由から安いものを購入してしまうのが実情です。特に、外国産のものは、気になりながらも使用してしまいます（女性 40 代）。

（４）食品表示に対する不安について（43件）

○　食品偽装が問題になっています。外国産と国産があれば、少し高価でも国産を購入します。消費者の信頼を裏切らないようにしてほしいです（女性 30 代）。

○　大手スーパーのプライベートブランド製品の表示で、発売元としてスーパー名を表示していますが、製造している所を表示していないものが多くあり疑問に思います。製造者がわからないので、不親切な表示ではないでしょうか？（男性 60 代）

○　表示を信じて購入するしかない消費者の気持ちを生産者によくわかってもらい、偽装表示等がないようにしてもらいたい（女性 40 代）。

○　何年も前から食品偽装問題がニュースで取り上げられているにも関わらず、未だに偽装表示はなくなりません。残念なことではありますが、表示を過信しすぎず、なるべく信用できるお店で買うようにしています（女性 40 代）。

○　表示を信用して購入していた食品に偽りがあったり等の話を聞いたりすると、何を信頼して購入すべきなのかわからなくなります。もっとどれを手にしても安心して購入出来ると良いと思います（女性 30 代）。

○　色々な情報が氾濫している世の中で、消費者も賢くなり、生産者も大変だと思う。私自身も食品を購入する際は、どうしても慎重になり食品表示を見ています（女性 70 代）。

（５）食品の検査体制に対する要望等について（20件）

○　市場に出まわるまでのプロセスで検査を徹底すべき。その為には、体制を充実させることが先決であると考えている（男性 60 代）。

○　農産物又は生鮮食料品等の輸入について、もっと厳しい検査が必要と思われる。規制緩和によって、食品検査を商社や輸入業者まかせにしてきたことが、結果的に事故米偽装のような事件に発展したのではと思います。国内に荷揚げする際には、国営検査の必要性があるのではないでしょうか（男性 70 代）。

○　テレビでサプリメントが良いとされていますが、変なものが入っていないのでしょうか。成分検査をして、分かるようにしてください（女性 50 代）。

○　特に畜産物・魚貝類の産地表示が正しいものなのか疑問に思っています。抜き打ちの検査等してほしいです（女性 50 代）。

○　中国産の食品が多く出まわっていますが、安いというだけで店頭に並ぶのは心配です。加工されているものも、その中にほとんど中国産の材料が入っているので、成分検査を十分してほしいと願っています（女性 50 代）。

（６）生産者・事業者のモラル向上に対する意見について（13件）

○　製造所等への立入検査行っても、意識が変わらない限り意味のないことだと思う（女性 20 代）。

○　消費者が敏感になっている反面、業者の意識については低いように思われる。業者のモラルに少し疑問を感じる（女性 30 代）。

○　営利主義を追求するあまり、安全性が希薄になっていることに強い懸念を持っています。食品を扱う会社の道徳観や使命感の崩壊を何とかくいとめる手段がないのでしょうか（女性 60 代）。

○　信用できなくなっている。自分で作ったものや、知り合いの畑から採れたものだと、見栄えが悪くても安心できる（女性 20 代）。

○　最近のニュースでは、会社の利益を優先して、偽った情報を出している会社をよくニュースや新聞で目にするので、とても不安に感じます。利益よりも消費者のこ

とを考えるべきだと思います（女性 20 代）。

（７）消費者育成に関する意見について（31件）

○　私たち消費者が、もっと生産者の立場を理解して、見栄えにこだわらず、食品を購入することも大切だと思います。生産者の方との交流や、農業体験などができるといいと思います（女性 40 代）。

○　消費者が、安い価格に集中せずに、多少高い価格の物でも目を向けることが大切だと思います。体を悪くして、薬代になることを思えば、食の安全に支払うお金こそ無駄にならないと考えます。私自身も地産地消にこだわり、生活を続けていければ良いと強く思っています（女性 50 代）。

○　食の安全を守るには、まず消費者自身が自分の身は自分で守るという意識を持つことからはじまると思う。「大きなメーカーの製品だから大丈夫」「行政機関がちゃんと監視・監督している」など、思い込みや人まかせでなく、自分で判断できるように正しい情報を収集することが重要である。消費者の食の安全への意識の高まりが、企業や行政を動かす力となる（男性 40 代）。

○　食の安全については、随分と消費者の知識が高くなってきていると思いますが、まだまだテレビ・新聞などの影響が大きいと思います。自分なりの食に対する意識が必要と思います（女性 60 代）。

○　消費者自身が生産者に多くを求めるため、自ら食の安全を脅かしているように思う。見た目よりも、味や、食べ物をもっと大切にする気持ちが必要だと思う（女性 30 代）。

○　現在は、野菜なども親が栽培しているので、「食の安全」ということについてはあまり考えることがありませんが、今後はいずれ、自分も親となり、子供を育てていかなければならない環境になるので、真剣に考えなければいけないと思いました（女性 30 代）。

○　虫喰いの野菜は虫が安心して食べるので、人間が食べても安全だという考えで消費者が食品を購入すれば、生産者も必要以上に農薬を使わないのではないか。かしこい消費者にならなければならない。自分で自分の健康を守る！！（女性 40 代）

（８）行政施策への要望等について（32件）

○　食品偽装が多く、何を信じていいのかがわからず不安なので、安全なものを食べられるように国がきちんと管理してほしいです（女性 40 代）。

○　自社製品を悪く言う業者はいない。行政の指導強化が必要（女性 40 代）。

○　食品の安全性や食品産地偽装に対し、厳しく行政は指導してほしい。内部告発に関してもきちんと調査公表してほしい（女性 40 代）。

○　地産地消を進めるために、学校給食に地元の米を使用できるように、行政が差額をバックアップすべきだと思います（女性 30 代）。

○　地域の農地存続のため、必要な補助や人材育成、指導者・労働者の確保など、必要とあれば条例化してでも実施していただきたいです。また、国に対しても、国土と国民を護るという使命を第一に、厳格に対処していただきたく思います（女性 30 代）。

○　環境の悪化により､多くの農薬などを使用しなければならない現状もあると思う。また、多産や利益のみを追求した生産方式を転換させるように、行政が生産者を奨励すべきだと思う（女性 40 代）。

○　業者のコンプライアンスにも限度があると思うので、行政が国民の食の安全・安心を確保するために徹底した指導をすべき（男性 40 代）。

（９）正しい情報発信への要望等について（21件）

○　健康食品やサプリメントの広告は、テレビでも新聞でも大きすぎる。抵抗なく信じる人は多いと思います（女性 70 代）。

○　テレビ番組で、大食い、食物の扱い方、目に余る事が多すぎる。子供達の食事の仕方、摂取の方法等、考えさせられる事がある（女性 60 代）。

○　食育が今日話題になっています。家庭料理を見つめ直して、就学児童の朝食をきちんと食べさせる活動を、県の広報を通じて、広く県民に知らせてほしいです（男性 70 代）。

○　マスコミの過剰報道はやめてほしいと思う。消費者にはどこまで安全な範囲なのかを、本当に正しいことを報道してほしい（女性 30 代）。

○　テレビなどで報道されている言葉の中に、年配には解りにくい言葉が多いので、理解しやすいようにしてもらえたらと思います（女性 50 代）。

○　安全面について不安もあるが、だからといってどうしたらいいのかも分からない状態。自分たちに知識が少ないことも原因だとおもうけれど、だからこそ、もっと情報公開・情報提供していただきたいと思う（女性 20 代）。

（１０）その他の意見（91件）

○　健康であるためには、食事は一番気をつけなくてはいけないと思っています。昔から伝わる和食・玄米・野菜中心の食事等をすれば、アレルギー・アトピー・成人病等は少なくなると思います（女性 50 代）。

○　子どもの頃から食生活や素材の味、また、生産者の仕事を理解し、食に対する教育を授業の中に取り入れていかなければ、将来、心も体も健康な子どもが育っていかないと思う（女性 50 代）。

○　安全・安心は必要なことですが､あまりこだわっていると生活しにくくなります。７０代の私達はもう良いのですが、子供達の事を考えると心配です（女性 70 代）。

○　スポーツをしている者として、日々の食事はとても大切だと思っています。僕たちが食べるものは安全で、栄養がたくさんあるべきだと思います。心身ともに丈夫に豊かに発達するために、しっかり安全管理を行ってほしいです（男性 10 代）。

○　最近、特に農産物については、地産地消の動きが強くなってきたと思う。「地で採れたもの＝安全」につながっているのだと感じる。虫喰いの葉菜類を好んで購入する消費者が増え、消費者の健康嗜好が高まっているのではないか（女性 30 代）。

○　見た目が綺麗で整った形をしていなくてもいいので、安全で信頼できる物を提供して頂きたいと思います（女性 30 代）。

○　いろんな食品を口にする現在、自分だけでなく子孫に対してどう影響するか不安である。本当に安全な食品はあるのか、今後、健康を維持するためには何を食すべきか？（女性 50 代）

○　貧血なので、鉄剤サプリメントがあると助かるので利用していますが、安全については考えた事がなかったので考えてみたい（女性 10 代）。

○　和歌山のスーパーの野菜で、和歌山産より外国産が目立つのはおかしいと思う。もっと地元の物を地元の人に安くするべき（女性 60 代）。

○　加工品等（インスタント）に頼らず、地元の旬の食材で手作りすることが一番です。わかっていても、若い人達は、仕事をもっていると理想通りにいかないでしょうね（女性 60 代）。

○　農産物で、生産者の名前があると安心できる。生鮮食品が古いスーパーは、その他の食品の安全性も不安になってしまう（女性 30 代）。

○　なるべく安全な物を手に入れるようにしているが、地球環境が汚染されているので、完全には安心できない。安全よりも経済性が優先されている。食の安全は身体の健康にもつながる（女性 50 代）。